

2章：ゲームは禁止？

勉強する時間を最大限とるために、出来ればゲームをする時間は最小限にしたいと親心としては当然思う。最小限ではなく、禁止にした方が将来の子どものためだと強く信じている親がほとんどなのではないか。特に受験期（5年生後半から6年生）だけでも。

しかし、いくら親が言っても、ゲームをしたいと言う子どもの気持ちにはなかなか勝てないのも事実。知り合いにゲームメーカーに勤めている友人がいるが、彼らの創造性にはいつも度肝を抜かれる。子どもをやる気にさせるスイッチがどこにあるのかをことごとく知っているようなようだ。しかも次から次によくもまあ、新しい発想（繰り返しているのか？）が生まれてくるものだ。少し話は逸れたが、わが家がゲーム対策としてやってきたことは、いろいろな種類のゲームがある中で、意味のあるゲームを主にさせるということ。自主性も大事なので、親が強制的に与えたゲームばかりをやらせることは返って悪影響になる。自分で何も考えられない、指示待ち人間になり、受験する学校すら決められなくなってしまうかねない。なので、シューティングゲームやアクションゲームなど自分が選んだ好きなゲームも、もちろん子どもはやっている。ただ、親がやらせたいゲームについては、親も一緒に参加するようにすれば、

自然と軽重がつくようになる。小学生くらいまでの子どもであれば親と一緒にゲームすることが嬉しくて、案外一緒に楽しめるものだ。

では、具体的にどのようなゲームが役に立つのか！？・・・

※全文をご覧になりたい方は小冊子プレゼントフォームへお進みください。